

大阪は「まち」がほんまにおもしろい

# 大阪 あそ歩あそぶ ASOBO®

## 大阪市内最高峰・鶴見新山の頂へ ～徳庵、浜ルートから挑む～

徳庵から古堤街道を北上し、枝切道を抜けて浜へ。旧門真井路を通りながら水郷地帯の歴史に触れた後、鶴見緑地へと参ります。風車の丘まで登ったら、大阪市内最高峰・鶴見新山は目の前です。うなぎ寿司とくるみ餅で腹ごしらえを済ませ、さあ、頂上へ！！

### ① 別品餅

150年の歴史を持つ、くるみ餅を徳庵商店街で販売しています。幕末の頃、生駒の聖天さんへ参詣する人が、店のくるみ餅を口にして、「これは別品や！」と絶賞したことから「別品餅」として売り出し始め、以来、徳庵名物となりました。

### ② 比枝(ひえ)神社

元禄4年(1691)に近江・坂本の日吉神社の分霊を勧請し、山王権現と称しました。境内には幾つもの石灯籠が並び、山王宮と書かれたものがあります。本殿は安永5年(1776)に建立され、神仏分離令を受けた明治2年(1869)に山王権現から比枝神社と改称されました。

### ③ 古堤(ふるつつみ)街道(奈良道)

大坂と生駒山麓を結ぶ道で、古堤道とも奈良道、大和道とも呼ばれていました。かつては深野筋(大和川)の右岸沿いの水辺の道で、公儀橋の一つであった野田橋付近から鯉江川沿いの土手道を進み、蒲生から今福を経て放出の阿遅速雄神社南側を経由して今津、徳庵、中茶屋…更に東へと向かう道でした。明暦元年(1655)、新開池の排水を良くするために徳庵から今福まで約3kmにわたって徳庵井路が掘削されると、今福～放出～今津～徳庵に至る堤道は脇道となって野田道や稲田道と呼ばれるようになり、徳庵井路北岸の徳庵堤が古堤街道となりました。徳庵井路は改修工事を終えて宝永7年(1710)に寝屋川と改称されました。

### ④ 野崎詣

野崎の慈眼寺は行基開創と伝えられ、永禄8年(1565)に兵火によってお堂が焼失しましたが、寺は江戸時代に入り再興されました。寛文11年(1671)、4月1日～8日まで25年に一度開扉の観音様を特別に開帳する「野崎詣」で寺運興隆が図られ、野崎詣は元禄・宝永年間(1688～1711)に大流行しました。八軒家から船を利用して寝屋川や鯉江川を通り、徳庵・住道を経由して参詣するコース、古堤街道を陸路で参詣するコースがあり、船上の参詣者と街道の参詣者との間で繰り広げられた「ふり売り喧嘩」という口喧嘩は徳庵堤の風物詩となっていました。「ふり売り喧嘩」で勝てばその年は縁起が良いとされ、喧嘩をしても決して怒ってはいけないという決まりがありました。

### ⑥ 枝切道

京街道の黒原から南下し、藤田あたりから古川に沿って榊島、浜、中茶屋、徳庵…へと行く道で、中茶屋道標で古堤街道と分かれ、浜の道標で焼野道と分かれます。浜の辺りでは葎が生い茂り、蓮池が多かったようです。

### ⑧ すし浅

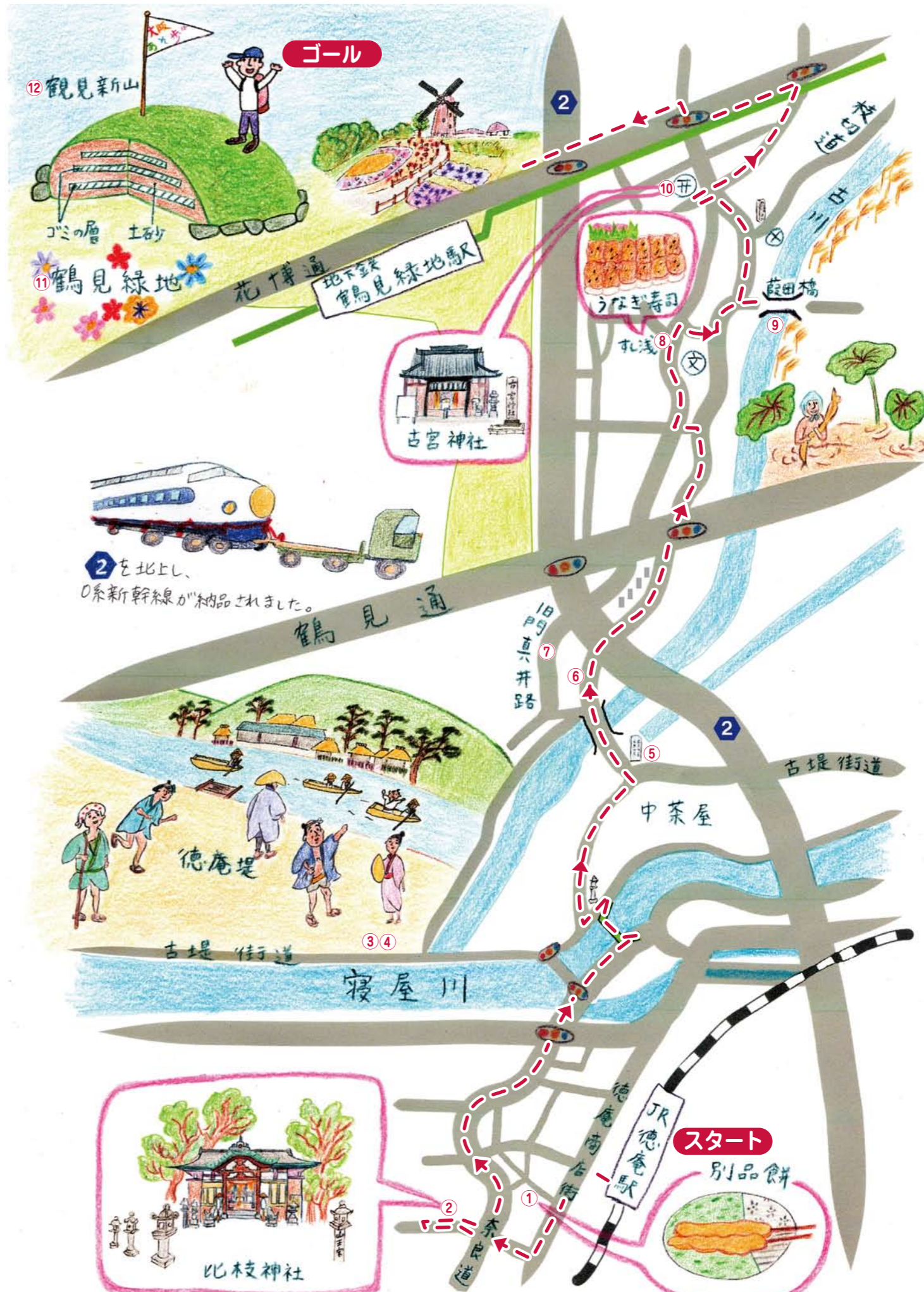
茨田名物の一つに、うなぎの箱寿司があります。かつては古川橋から徳庵までの間に7軒のうなぎ寿司屋があったそうで、80年の歴史を持つ浜の「すし浅」がうなぎ寿司の歴史を守り続けています。絶妙な甘さのタレが鰻とご飯を引き立て、黒ゴマによって味の深みが一層増します。金・土・日のみの営業で午前10時～売り切れ次第終了。

### ⑪ 鶴見緑地

鶴見緑地は、昭和16年(1941)に大阪府の都市計画として服部・久宝寺・大泉とともに4大緑地の一つとして造成計画が立てられました。ほとんどが田んぼであった鶴見緑地造成地は、翌年より用地買収計画が立案され、昭和20年(1945)8月までに約30万坪の買収を終えていましたが、戦後、GHQによる農地改革の影響を受けて、農民に土地が返還されました。その後、大阪市は昭和37年(1962)に過密都市対策として鶴見緑地造成計画を立てて用地買収を開始し、昭和47年(1972)に市民園芸村(貸農園)、大芝生など11.8haの供用が始まりました。大阪市は市制100周年を8年後に控えた昭和56年(1981)、大阪「花の国際博覧会」(フローラ大阪89)という地方博覧会を計画しましたが、後に日本政府による「国際花と緑の博覧会」構想が出たことから大阪はその招致活動を開始し、結果として、地方博覧会ではない国際博覧会「国際花と緑の博覧会」を鶴見緑地で開催することが博覧会国際事務局によって承認されました。「花博」は平成2年(1990)4月1日～9月30日までの開催期間中、約2,312万人が訪れました。

### ⑫ 鶴見新山

鶴見緑地に10～15mの丘陵を造成する計画がありましたが、途中で40m台の高さに計画変更されました。大阪市内のゴミ埋め立て処分場が不足していた1960～1970年代、鶴見緑地は大量のゴミ処分場として選ばれ、丘陵を高くすることで、より多くのゴミを埋め立てることができたことがその理由の一つです。ゴミ3mの層の上に、地下鉄工事や道路工事などから出る残土2mの層を交互にサンドイッチ状に重ね、最後は残土で4～5m覆土した後、化粧用の山土1mで新山が完成しました。ゴミの腐食や圧縮による地盤沈下は当初から予測されており、昭和49年(1974)時点では計画より高めの標高47mの山でした。花博開催翌年の平成3年(1991)には38.8mまで沈下しましたが、大正区の昭和山を意識したのか、市内最高峰を維持するために再び2m盛土しました。現在の標高は約39mとされています。造成当時の昭和48年(1973)頃には、生ゴミの細菌・微生物による分解によって炭酸ガス・メタンガスなどが発生し、噴き出したガスが高く燃え上がり、さながら火山の様相を呈していたそうです。



【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内) 「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または「大阪あそ歩」でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。